

Rejoice To Participate in the Sufferings of Christ

キリストの苦しみに預かれる喜び

御言葉：Iペテロ 4:1-19

要 節：Iペテロ 4:13

4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。but to the degree that you share the sufferings of Christ, keep on rejoicing, so that also at the revelation of His glory you may rejoice with exultation.

私たちは「苦しみ」という言葉と「喜び」という言葉の中で、どちらかを選択してくださいと言われたら、迷うことなく、「喜び」を選択します。自分の人生に苦しみが溢れることを願う人は誰もいません。人はみんな幸せになりたいからです。しかし、今日の御言葉のタイトルはこうです。「キリストの苦しみに預かれる喜び」です。

今日の本文の12節、13節と一緒に読んでみましょう。「4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」

今日の聖書は、私たちに、イエスキリストを自分の救い主として信じているすべての人々に、苦しみに持つべき姿勢を教えてください。苦しいとき、燃えさかる火の試練のとき、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、キリストの苦しみにあずかれるのだから、喜びなさいと言っています。

苦しみの言葉より、喜びという言葉を選ばず選ぶ私たちにとっては、なかなか受け入れにくい、理解しにくい言葉ですが、本文の御言葉を通して、ペテロが紹介するイエスキリストの真の御心に触れ、私たち聖徒の生活が「むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」に従順する生活となりますように祈ります。

1節から6節の御言葉で、ペテロはキリストのために苦しむことに対する平常心の心構えを持っているように言っています。聖徒たちはイエスキリストを救い主として告白してからその身分がこの世にない、天の御国にあります。しかし、ペテロはなぜそんな事実を良く知っている聖徒たちに1節の御言葉を伝えたのでしょうか。「キリストは肉体において苦しみを受られたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。」それは聖徒たちの中では、さまざまな国や民族の人々がイエスキリストを信じて聖徒になった人が多くいて、その人々の中で、まだ初心者の聖徒たちが今までの自分の悪い習慣を断ち切らずにいた人たちが多くいたからです。異邦人たちがしたいと思っていることを行ない、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものを捨て切れずにいる聖徒たちが多くいました。

現代は特にインターネットやテレビなどで多様化された文化や考え方にすぐ接し影響されやすく、捨て切れずにいる聖徒たちもいます。また、自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので、異邦人たちは不思議がられ、悪口を言います。しかし、聖徒たちは、このようなことについて、きちんとした態度をとるべきです。キリストを得たこと、得る生活をしている聖徒たちは、そのために受ける苦しみに対して、きちんとした心構えで立ち向かい、罪の悪い習慣の生活をしているならば、断ち切るべきです。なぜなら、それはその人々が肉体においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるためです。

私たちが異邦人としていたときから持っている罪の習慣と縁を切るのに時間がとても長くかかっているかもしれませんが。しかし、私たち自身、私たちの罪のために十字架につけられたイエスキリストを救い主として告白し、従うときから罪を憎むものとなりました。私たちの心の中には、罪を憎み、神様のすばらしい御恵みと御力を信頼して生きています。私たちは異邦人の迫害や自分の中に断ち切れない罪と戦う苦しみにととうと立ち向かう心構えをもって、神様の御心に従うとき、私たちは本当の喜びと命を得ることができます。

7節から11節でペテロは、私たちが苦しみに対するとうとうとした心構えをしなければならぬ更なる理由を教えてくださいました。それは一言で言うと、「万物の終わりが近づいたからです。」苦しみを受けていて、本当につらくてつらくてどうしようもできないときなのに、ペテロはこうしています。「4:8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。」と言ってます。苦しみを受けているとき、火の試練の中にいるとき、神様から頂いたタラント（才能）を用いて、隣人に仕え、家族に愛をもって仕え、聖徒たち同士に仕え合いなさいといわれました。それができるのは、祈ることです。この世が終わりに近づいていて、もうまもなくしたら、主イエスキリストがこの世に再び来られるという信仰を持つために祈らなければなりません。祈ることによって、火の試練の真ん中にいても、その全てのことが、イエスキリストを通して、神様があがめられるようになります。

いよいよ、今日の御言葉のクライマックスが近づきました。今日の御言葉の要節をもう一度読んでみましょう。「4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」今日の御言葉のテーマは、苦しみが私たちの目の前に有って、燃えさかる火のような試練の真ん中にいる聖徒たち、この世の異邦人たちと区別された生活や考え方、信仰をもっている現代の聖徒たちが直面している数え切れない、さまざまな苦しみに対する心構え、とるべき態度をとることです。

苦しみにいろいろな種類があります。産みの苦しみがあり、病気による肉体的、精神的痛みがあります。人に誤解されるなど、人間関係破壊からの苦しみもあります。どちらにしろ、苦しみとは私たちに痛みを与え、悲しみの感情を与え、言葉に表現できないつらさを与えます。苦しみは誰もがいやがり、苦しみが訪れたときには「苦しめる理由は、私のせいですか?」「私は、こんなに苦しむに値するために、何かをしましたか?」、あるいは「なぜ、私だけこんなに苦しんでいますか?」と心の中では叫び狂っています。そんな聖徒たちに、そんな私たちに主はこういわれます。「4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」私たちの人生が、私たちの日々がキリストの苦しみにあずかれるのですから、喜びなさいといわれます。キリストの苦しみにあずかれるときに得られる喜びは、今まで経験したことの無い不可解な喜びです。人の常識では、頭では到底理解することができない不思議な気持ちとなる喜びです。祝福されて得られる喜びも非常によいもので、この世の幸せがこの身に降りかかってくるその大きな喜びは本当によいものです。しかし、イエスキリストの苦しみにあずかれることによって得られる喜び、イエスキリストにあずかるのだから、その希望と望み、信仰によって喜ぶことは一味も二味も違うものです。

ここで、イエスキリストの苦しみについて考えて見ましょう。聖書、その中でも福音書にはイエス様の苦しみについて、代表的な箇所が二つあります。一つは汗が血のようになるほど祈られたゲッセマネの祈りのところです。ルカ 22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりになしてください。」もう一つは十字架の上での神様への叫びのような祈りのところです。マタイ

27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。

イエス様は私たちの罪のために、贖いの代価を払うために、軽蔑と無視とののしりを受けました。鉄の塊がついた鞭で数え切れないほど打たれ、身体の肉がえぐられ、骨が砕かれました。血が水のようにながれ、想像もできない痛みや苦しみが襲い掛かりそして死なれました。身体に刺された釘は身体の肉や皮膚の神経を破壊し、骨についている繊細な神経をも破壊されました。全身に何秒ごとに口に現せない痛みが走り、苦痛が魂までも壊すほどでした。死ぬ直前のときにも痛みや苦しみがすぐには死に切れず何回も何回も気絶しては起き、気絶してはおきて、やがて死なれました。

こんなイエスキリストの苦しみによって、私たちは救われました。このイエスキリストの痛みと叫びにより、私たちは平和を頂きました。このイエスキリストが裁かれたことよって私たちに真の喜びが訪れました。このイエス様の死により、私たちは永遠のいのちを得ることができました。

そして、このイエスキリストの苦しみが形や重さ、スピードは違うかもしれませんが、私たちが神様の選ばれた子供であるなら、私たちの人生にきっと訪れます。そのとき、私たちはどうするべきでしょうか。そして、日々の生活をどうすべきでしょうか。それは日々の生活の中で、イエスキリストの苦しみに預かれる生活をしなければなりません。苦しみを避けて生活するのではなく、積極的にイエスキリストの十字架を背負い、その苦しみから訪れ不思議な喜びを味わう生活をしなければなりません。

「4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」 苦しみは苦しみで終わるのでは有りません。やがてキリストの栄光が現れるとき、喜びおどる者となるのです。私たちが苦しみのとき、イエスキリストを考えることで、私たちには理解できないほどの喜びが与えられます。イエスキリストの苦しみを考えるとき、不思議な勇気や力を頂くことができます。これがイエスキリストを救い主と告白して神様の御心によって生きる私たちの偉大な秘密です。

この世にはただ苦しんで死んでしまう多くの人々がいます。その死は本当にむなしいです。しかし、私たちの苦しみは喜びと栄光が保証されている苦しみです。主の時に、栄光輝く賞賛を頂ける苦しみであり、日々の生活の中でイエスキリストをより知る尊いものです。私たちの人生にどんなことが起きるか誰も知りません。ただ、私たちはそれが怖くないです。なぜなら、それはイエスキリストの苦しみに預かれる絶好のチャンスであり、それが喜びと変わるからです。私たちは苦しいとき、イエスキリストの苦しみに預かれることを喜びましょう。そして、主の栄光の日に、喜びおどる者となりますように祈ります。この確信と信仰をもって、キャンパス弟子養成の御わざに積極的に苦しみを受けることができるように祈ります。

Rejoice To Participate in the Sufferings of Christ

キリストの苦しみに預かれる喜び

御言葉: I ペテロ 4:1-19

要 節: I ペテロ 4:13

4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。 **but to the degree that you share the sufferings of Christ, keep on rejoicing, so that also at the revelation of His glory you may rejoice with exultation.**

1.1-2節を読んでみましょう。どのように、罪のないイエス・キリストは私たちを得るために、罪とどのように戦いましたか？
(3:18) 私たちはどうやったらイエスキリストと同じ心構えで、武装することができますか？

2.3-8節を読んでみましょう。異邦人は、何をしたいと思っていることを選び、行っていますか。神の聖徒たちは何を選びますか？(2) 異邦人たちは、神の意志によって生きることを選ぶ人々について、何を考えますか？なぜ、私たちは異邦人たちが考えるものを心配してはいけませんか？万物のおわりが近づいている今、私たちはどのように生きなければなりませんか。どうしたらそれができるのでしょうか。

3.9-11節を読んでみましょう。私たちは神様の賜物をどのように使うべきですか。どのようにしたら私たちの家庭教会を通して神様があがめられるようになりますか。

12-14節を読んでみましょう。イエスキリストが受けられた試み、火の試練と苦しみに対して私たちはどうするべきでしょうか。なぜ、キリストの苦しみに参加することが喜びでしょうかについて考えてみましょう。

4.15-16節を読んでみましょう。イエスキリストの苦しみにあずかることすなわちキリスト者として苦しみを受けるとき、私たちは何をすべきでしょうか。そして、それはなぜでしょうか。19節を読んでみましょう。

神様の御心にしたがってなお苦しみに会っている人々は、何をしなければなりませんか。それによって、私たちは神様がどんな方であることを知るようになりますか。